

阪神電車とグループ120年のあゆみ

2025年4月12日(土)、阪神電気鉄道は開業から120年を迎えました。グループ会社とともに、お客さま一人ひとりの「たいせつ」に向き合い歩んできた120年を、懐かしい写真を交えて振り返ります。

第4回 **1965(昭和40)年～1984(昭和59)年**

高度経済成長期における鉄道近代化と 関連事業の展開

神戸高速鉄道の開通と 鉄道諸施設の近代化



神戸高速鉄道 旧神戸トンネル西側扁額
「咸宜道(かんせんどう)」
「みな宜ろし」の意。神戸高速鉄道の性格と使命を
簡単に浮き彫りにした。(同社蔵)

鉄道事業では、1968年に神戸高速鉄道の開通により宿願の元町以西への延伸を果たし、山陽電鉄との相互直通運転を開始しました。また、沿線自治体と共同で西灘～石屋川間、大物～姫島間などの高架化を進める一方、1975年には併用軌道線の営業を終了しました。さらに、

ATS(自動列車停止装置)やPTC(列車運行管理システム)の導入、踏切の自動化などにより安全性の向上に取り組むとともに、出札業務、改札業務の機械化、1983年には大手民鉄初となる全車冷房化を果たすなど、快適な輸送の提供に努めました。1984年には武庫川団地居住者の通勤・通学の足を確保するため、武庫川線洲先～武庫川団地前間を延伸しました。

開発ブームによる沿線外への進出

不動産事業においては、梅田地区に西阪神ビルを建設。当初は全館賃貸ビルとして計画されましたが、大阪万博を控えホテルが不足

するとの予測から、急遽ホテルを併設することとなり、1967年にホテル阪神が開業すると期待以上の営業成績を収めます。宅地分譲については、開発余地が失われつつあった沿線から沿線外へと重点を移していきました。



西阪神ビル竣工

1970年代初頭には日本列島改造論をきっかけに開発ブームが起これ、大手私鉄各社が沿線にとられずにテリトリーを広げる動きがみられました。当社においても、不動産開発事業の本格展開を目指し、広く西日本全体を視野に調査・研究がなされ、岡山、鳥取、島根、兵庫県北部でリゾート、ホテル、国民宿舎、別荘などの開発を行いました。

遊園地間の競争激化に対抗

戦前から営んできた香櫨園と甲子園の海水浴場は、高度経済成長による海水汚染で閉鎖することとなり、1964年、阪神パークに代替となるデラックスプールをオープンしました。その後、遊園地間の競争が激化してきたことから、1971年にはアイススケートリンクを開設。さらに園内一周モノレール、大観覧車、ジェットコースターなどの大型遊具の導入やデラックスプールの拡充にも取り組みました。1979年には併用軌道線の浜田車庫跡地を活用し、阪神タイガース練習用の浜田グラウンドを整備。

CHECK!



現在、駅構内のポスター・サイネージや「「たいせつ」がギュッと。」ラッピングトレインで、ポスター企画「阪神「たいせつ」ストーリー」を展開中!ぜひチェックしてください。

★「阪神「たいせつ」ストーリー」は阪神電気鉄道Webサイトでもご覧いただけます。

<https://www.hanshin.co.jp/taishetsu/>



さらに、阪神甲子園球場の施設改良に多額の投資を行った結果、公式戦入場者数は大幅に伸長しました。

六甲山では、天候による入場者数の変動を克服するため、フィールドアスレチックなどの施設を設けたほか、1978年からは人気ミュージシャンによるコンサートも開催しました。



阪神パーク園内

年 表	
1967.4.25	ホテル阪神営業開始
1968.4.7	神戸高速鉄道(現・神戸高速線)開通
1968.4.18	石屋川車庫完成(日本初の検車庫付き高架車庫)
1971.8.3	本線、西大阪線全駅の出札業務自動化完了(大手民鉄初)
1971.11.27	阪神パークにアイススケートリンクを開設
1975.5.6	併用軌道全線の営業廃止
1978.4.28	六甲山フィールド・アスレチック(現・六甲山アスレチックパークGREENIA)を開設
1979.3	浜田グラウンド開設
1983.4.30	全車両の冷房化が完了(大手民鉄初)
1984.4.3	武庫川線洲先～武庫川団地前間の営業開始